

F u - Z i n

第40号

平成27年10月発行



報告

第34回NPO博多の風フォーラム  
はかたひげしせんがくのいさおし  
「博多火消浅学塾

第二話」



報告

第14回 博多のおいしゃんと歩こう  
追い山笠コース探訪

告知

第15回  
あつまれ楽文コンテスト表彰式

## 近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください  
<http://hakanokaze.jp>

### 平成26年

- 4月 第32回 NPO博多の風フォーラム 開催  
講師:大庭 宗一氏(NPO博多の風 理事長)
- 6月 第13回 追山コース探訪 開催  
第14回 楽文コンテスト 開催
- 11月 第33回 NPO博多の風フォーラム 開催  
講師:八木 繁氏  
(九州電力株式会社 原子力コミュニケーション本部部长)

### 平成27年

- 4月 第34回 NPO博多の風フォーラム 開催  
講師:因幡 敏幸氏(春日大野城那珂川消防本部)
- 6月 第14回 追山コース探訪 開催  
第15回 楽文コンテスト 開催

### NPO博多の風の歩み

- 設立  
平成10年 9月  
任意団体『博多の風』設立 代表:大庭宗一
- NPO登記  
平成12年 6月  
『NPO博多の風』として登記 理事長:大庭宗一

### NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
  - ・博多の風フォーラム開催
  - ・広報誌・HP発行
  - ・毎日新聞世論フォーラム公聴
  - ・作文コンクール(楽文コンテスト)開催
- 地域環境向上事業
  - ・博多の町親交  
(清掃活動・クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
  - ・書籍出版
  - ・博多祇園山笠の振興
  - ・追山コース探訪開催
- 協力事業
  - ・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027  
福岡市博多区下川端町8-16 -302  
FAX 092-263-7188

E-Mail [info@hakanokaze.jp](mailto:info@hakanokaze.jp)  
URL <http://hakanokaze.jp>



博多火消浅学塾

第二話 地震に備える自身の自信

去る平成27年5月23日、第34回NPO博多の風フォーラムが福岡市立博多小学校「表現の舞台」にて行われました。今回は春日大野城那珂川消防本部の因幡敏幸さんにご登壇いただき、「博多火消浅学塾 第二話」と題してこれまでの大地震との関わり、救助活動の最新線や今後について講演いただきました。



因幡 敏幸 (いなば としゆき) 春日大野城那珂川消防本部

昭和25年9月12日生まれ。現在は春日大野城那珂川消防本部専門監、総務省消防庁デジタル無線アドバイザー。恵比須流下堅町から博多祇園山笠に参加。博多の町をこよなく愛し、NPO博多の風副理事長も務める。

関東大震災から70年経て

まず記憶を遡らせていただきます。20年前の災害というのはいつだったかというのと、そう、「阪神淡路大震災」です。皆さんの中で、この震災を体験された方はおられますか？お一人ほどいらっしやいますね。この震災は関東大震災から70年経ち、生活の面ではかなり文化が進みました。仮に自分自身が埋まるとして助けを求めると、行こうと；そう「声を出して知らせる」という手段、これは70年前と変わってないんです。現実問題として助けられなかった人の85パーセントは消防ではなく、近くの人が助けてるんです。

阪神大震災の時は、震度が7、マグニチュードが7.3で、約65000人が亡くなられております。大きな震災が70年ぶりに発生して、我々消防はどうだったか？という、「行けない」んです。被災地に行けない。道路がものすごく混んでいて、地震が発生した活断層の所まで行き着けない

んです。なぜかと言うと物見遊山で来た人も結構いたんですね。もともと消防車っていうのは自分の管内だけを守るために作られておりまして、遠距離の移動ということ当時はさほど考えていないんですね。ライフラインが切れて消防車がいっても消火ができない。この時の逸話が残っているんですが、当時7キロもホースをつないだそうなんです。消防車を7キロの間に14台並べてです！7キロといえども山笠の追山コースが約5キロです。石村萬盛堂の前までです。それから約2キロ、とて、それから約2キロ、という状況が阪神淡路大震災の時には起こってあります。ですから火の勢いに太刀打ちできるような状況ではなかったんですが、そんな中でも消防は現地に入っていきました。

事なのは「救助活動は最初から大規模にやる」、そして「事が人命に関わる場合は主義主張を捨てる」ということです。一番皆さんに関わることでしては「防災ボランティアの重要性」が分かったんです。消防がどうの、自衛隊がどうの、警察がどうの、この中で助ける。「自助」、お互いに助ける「共助」、で最後に公的機関が助ける「公助」となるわけなんです。横にいる人間が助けるというボランティアの大事さがこの災害で痛いほど分かったわけですね。

中、阪神淡路を機にできました。緊急消防援助隊が活躍しております。10月23日、つまり発生日から動き出して11月10日まで間に453人を助けています。我々はその1年後に「福岡西方沖地震」を体験しております。この時の死者の数は1名でした。よく災害で「死者は何名、負傷者何名」、その数が大きければすごい災害だなど我々一般的に思いますけれども、それは実は間違いなんです。なぜかと言うと、「規模」は大きいかもしれませんが、その当事者、または家族にとって命を落とすというこの重みは数では計れないからです。一人であっても、それならすいずい災害なんです。亡くなられた人の数で規模を考えてはいけません。特に我々消防・救急従事者はですね。最終的に人を助けることができるのは人しかいないわけなんです。機械じやないんですね。残念ながら機械では「あそこには人がいる」というところまでは分か

るけど、じゃあ助けるにはどうするかというと、人しかいないわけですね。想定外の「東日本大震災」東日本大震災はマグニチュードが9、震度が最初7と言っていたんですが、後で8に変わっているんです。ね。そして約2万人の方が亡くなられました。2万人ってピンとこないでしょうか？これって那珂川町の人口の約半分が亡くなられたということなんです。で、もう当然のことながらライフラインは寸断され水・ガス・電気の全てが切れました。この災害で我々が一番何を学んだかという「当事者が必ず情報を出す」ということです。この時間問題になったのは、放射能が出たということ。東電はなかなか言わなかったんですね。把握していたかどうかとも分かります。自分にも人間というのは自分にも利益な情報を出さない、希望的観測で物事をしゃべりたがる。それは第三者である我々

が動く時に非常に困るんですね。先ほど申しましたように、災害救助というのは最初から大きく構えていく。ですから情報は正確でないといい、どちらかといえば悪いほうに言ってくれたほうがいいんです。当時の政権はいろんな批判がございましたけど、こと災害救助に関しては非常に早かったと思っています。だいたい10万人の消防職員が全国から集まりました。発生から31分後には緊急対策本部というものが立ち上がっています。親分は誰かという総理大臣ですね。全国から7577部隊が集まり、消防・警察など全て合わせて約27000人が救出に当たりました。ただ、災害物資が届かない

ことがこの地震が発生した後たびたび言われました。阪神や中越の時は皆さんに食べ物と水がすぐ行ったんですけど、今回はその点がかなり言われました。これはどうしてかと思いませんか？起動手も早かった、みんながパニックと動いた、アメリカ艦隊も動き出した、水のなげなげ末端まで食料やお水が行き渡らなかつたのか？つまりですね、なんだから言っても災害時の活動の基本になるボランティア活動を仕切るのは市の職員だったり役場の職員なわけですよ。この人達が公務員として皆さんの生活を預かっているわけですね。ところがこの人達が被災してしまつた。亡くなつてしまつた。そうするとボランティアだけではどうやってもいいか分からないわけですね。今回の支援物資が遅くなつたというのには、役場の職員・市の職員が亡くなつた、役場や市役所そのものが機能しない、そういう状態になつてしまつたということですね。

の園長先生がロンドンにいる息子にケイタイメールを打つんです。周囲が火事で燃えていて、メールも「火の海」ダメかも「がんばる」と単文でただこれだけを送つたんですね。そのメールを見た息子は「インスタン」から救援依頼をツイッターで拡散してもらおうようお願いしたんです。その拡散した文章を東京都の当時副知事であった猪瀬さんが知ることとなり、東京都は東京消防庁にヘリの出動を命じたわけですね。結果的に446人もの命を助けることができたわけですね。

我々健常者と変わらないんだけれども、彼らは話せない。だから阪神淡路の時も何日間も食事が無かつたそうです。「こっちは並んでください」と言つてもそれが聞こえない。災害弱者なわけですね。このあたりの問題をなんとかしなければならぬというのがこの新しい施策として始まつたところ。で、「119番通報SOSカード」やスマホ用アプリがその1つです。皆さんには、そういった通信機器の進歩に伴って声以外の方法で我々を呼べるようになりつつあるという実情を今日のお話を通じてぜひ知っていただければと思います。

会場では当時の緊迫感ある映像や、聴覚障害者の方に向けたSOSカードについての説明VTRも流され、ユーモアも交えつつ分かりやすくお話しいただきました。そして何よりも「人を救うことができるのは人だけ」：その言葉に込められた熱い思いや使命感がひしひしと伝わってきました。福岡でもかつて西方沖地震がありました。遠い過去の話となりつつあります。そんな中、改めて我が身に置き換えてじっくりと地震や災害について考えることのできた大変意義深い時間となりました。



「気仙沼の奇跡」そしてこの大震災の時に一番驚いたのが「気仙沼の奇跡」です。これは1本のメールが400人以上の人を助けたという逸話です。気仙沼にある障害児童施設

こうした地震による災害で一番困る方々というのは、実は聴覚障害者の方なんです。ね。阪神淡路の時からそうなんです。外からみると全く

中、阪神淡路を機にできました。緊急消防援助隊が活躍しております。10月23日、つまり発生日から動き出して11月10日まで間に453人を助けています。我々はその1年後に「福岡西方沖地震」を体験しております。この時の死者の数は1名でした。よく災害で「死者は何名、負傷者何名」、その数が大きければすごい災害だなど我々一般的に思いますけれども、それは実は間違いなんです。なぜかと言うと、「規模」は大きいかもしれませんが、その当事者、または家族にとって命を落とすというこの重みは数では計れないからです。一人であっても、それならすいずい災害なんです。亡くなられた人の数で規模を考えてはいけません。特に我々消防・救急従事者はですね。最終的に人を助けることができるのは人しかいないわけなんです。機械じやないんですね。残念ながら機械では「あそこには人がいる」というところまでは分か

告知 第35回 NPO博多の風フォーラム 開催のご案内
■開催日時:平成27年11月14日(土) 開場:13:00/開演:13:30 ■開催場所:博多小学校「表現の舞台」
講演:「みんなで守ろう博多の町」 講師:戸谷弘一氏 福岡県警察本部生活安全部 参事官兼生活安全総務課長 警視
※ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、ご参加ください。多数の方のご参加をお待ちしています。



### 1 山留め

追山笠のスタート地点は「山留め」。太鼓の音と共に、清道を目指して一気に駆け上がります。



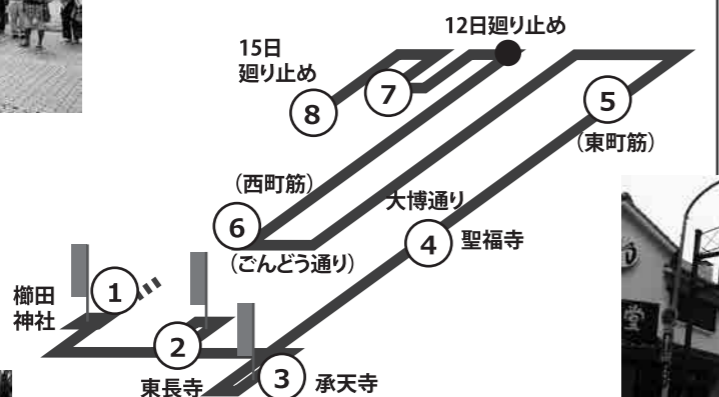
### 4 聖福寺

東町筋に入ると、寺社が多い町並みに変わります。聖福寺では「博多べい」や立派な楼門を見る事ができます。



### 2 東長寺

2つ目の清道旗が立ちます。境内には大仏殿や五重塔に加えて黒田家の墓所も。



### 3 承天寺

3つ目の清道旗が立ちます。山笠の迫力を間近で見れるポイントです。



### 5 東町筋



### 6 西町筋

ごんどう通りを曲がると、西町筋です。この角では、道幅が狭くベテランの鼻取りが付くことが多いです。



### 7 沖浜稲荷神社



### 8 15日廻り止め

須崎問屋街にある廻り止め。最後の直線は以外と長いですが、看板が見えると、自然と山足も速くなります。



## 報告 第14回追い山笠コース探訪

# 博多の おいしいやんと 博多を歩く。

6月7日に今年で14回目となる恒例の追い山笠コース探訪を実施しました。今年も新聞紙上での案内やホームページへの掲載に加えて、朝の情報番組にも出演して幅広く参加を呼びかけました。

9時に冷泉公園に集合したのち、理事長の挨拶、世話人からの注意事項の連絡に続いて、10班に分かれて順次スタート。法被に袖を通した博多の風の仲間達が、語り部として追い山コースを案内します。まずは土居通りを上つていき、櫛田神社の山留めへ。太

鼓の音と共に、清道に向かつて山笠が動き出す場所です。ここから、須崎の問屋街の廻り止めまで、追山の時は約30分で進みますが、今回の探訪では、途中の浜口公園での休憩をはさみ約2時間かけて歩いていきました。

博多部に残る神社仏閣などの様々な歴史背景や、昇手ならではの裏話などを交えて博多の町を歩くと、色々な発見が沢山あります。「博多の町のすばらしさを再発見できた」という感想が多く寄せられています。

#### 参加者アンケートより

いつも素通りしているところが、こんな歴史があったのかと説明で分かりました。

歴史も織り交ぜて説明していただき、分かりやすかったです。

山笠運営に携わっている方の大変さを改めて知りました。

説明される方がたくさん居られたので色々話が聞けて良かったです。

ユーモアたっぷりですばらしかったです。質問もしやすかったです。

博多のあらゆる歴史が知れる内容で、外の人間には興味深かったです。

知らないことが色々聞けて良かったです。

説明はシンプルにポイントを押さえておりとても良かったです。周りのサポートの方も丁寧で参加して良かったです。

参加しないと聞けない内容のお話よかったです。

2回目でしたが、コースが同じでも色々な方面から話が聞け、その都度質問したことも丁寧でよい。このスタイルで続けてほしい。



# 第15回 らくぶん 楽文コンテスト

表彰式

日時:平成27年11月14日(土) 開場10時30分 開演11時  
会場:博多小学校 表現の舞台

【応募学校数】

小学校**32**校 中学校**22**校 計**54**校

【応募総数】

約**2300**通

多数のご応募ありがとうございました

君が大好きなこと

君の家族のことや友達のこと、  
大好きなお祭や夢中になっている事  
いろんな君の「大好き」を教えてください  
詩・作文・歌、君にあった方法でかま  
一行でも、誤字・脱字、  
ぜんぶひらがなでもOK。  
じょうずじゃなくてもいい。  
そう、「楽文」でいいんです。



第33回 博多の風フォーラム



表彰式(平成26年11月)

今回で15回目となる楽文コンテストですが、7月から9月の募集期間に、福岡市内外54の小中学校から約2300通の応募がありました。年々応募作品数が増え、事務局としても嬉しい限りです。すべての作品に目を通し、1次選考から4次選考を経て、博多の風の執行部や後援・協賛いただいた企業・団体の方にも協力頂きながら、作品を選ばせていただいております。家族や友達のこと、お祭りや夢中になっていることなど、「君が大好きなこと」について書いた作品で、子供らしい生き生きとした作文や、大人では気付かない視点での文章など、読み応えのある作品がそろっています。表彰式では、優秀作品の表彰と、各賞代表の方の作品発表を予定しています。ご期待ください。(中村 巨樹)

大庭宗一の大人気エッセイ

シリーズ第9弾

「明日への一言。」9

人気シリーズ好評発売中  
熱いメッセージがいっぱい  
詰まったエッセイ集です

定価600円(税込み)

心に響く  
一言を  
見つけて  
ください!



## 賛助会員募集中

我々「NPO博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。お近くの博多の風の幹事か下記までご連絡ください。

一般会員

一口 1,000円(年間)

特別・法人会員

一口 10,000円(年間)

(一口以上、何口でもお申込みいただけます。)

お問合せ先

「NPO博多の風」広報企画(担当:山口)

E-mail [info@hakanokaze.jp](mailto:info@hakanokaze.jp)

FAX 092-263-7188

〜編集後記〜

9月にイギリスで行われたラグビーのワールドカップ。日本は初の3勝を挙げましたが、残念ながら決勝トーナメントには進出できず、予選敗退となりました。この大会での日本代表の活躍で、今までラグビーに興味を持たない人も見るきっかけになったと思います。

さまざまな国籍の選手が日本代表のユニフォームを着て戦っていました。代表の条件は「出生地が日本」「両親、祖父母のうち一人が日本出身」「日本で3年以上継続して居住している」というものだそうです。外国人選手が多いということ、感情移入しにくいという声もあったようですが、日の丸を背負い、君が代を歌い、相手ゴールを指す姿を見た多くの人が感動したと思います。出身は関係なく、目指すべきゴールに向かって、進む姿に、仲間と一緒に山笠に向き合う姿を重ねていました。日本で開催される次のワールドカップが楽しみになりました。

(中山 肇)

## 〜NPO博多の風 ホームページ〜



書籍購入の紹介ページもあります。



NPO博多の風の最新情報はホームページに掲載。内容は随時更新中です。設立趣意書や定款などもまとめております。

URL <http://hakanokaze.jp>

